



嘉藤 均議員

# 第6次総計の人口2500人は 厳しいのでは

**町長** 持続可能なまちづくりを進める上で  
必要最小限の規模で

**Q** 第6次総合計画は今定例会において、提案理由の説明が行われ、総合計画審査特別委員会を設置し、付託を受けたところであります。今後特別委員会の中で何度も審議、議論を行い取り進めることになりますが、計画最終年2029年までの目標人口を2500人と設定しています。相当ハードルが高いと思つております。

本計画の中では、定住促進環境の整備や就業環境の向上、子育て支援の充実など、町の特性や魅力を生かした取り組みによって子育て世代の転出抑制と転入促進を図ることであります。実際にどのような施策をもつて実施をしていくのかをお伺いします。

してまいりました。  
この計画では、10年後の目標人口を2500人と設定いたしましたが、今や全国的に少子高齢化の影響による人口減少が加速しており、本町も今後人口減少が続いていることは避けられないことから、2500人を目標としたところです。

11月末の人口が2840人ですでの10年後の人団を2500人とする目標は確かにハーデルが高いかもしれません。が、持続可能なまちづくりを進める上で必要最小限の規模であろうと考えております。

第6次総計では年齢構成を考え、特に子育て世代の転出抑制と転入促進を図ることといたしました。これまで取り組んできました様々な子育て支援策や住宅関連施策などをより充実させ実現したいと考えております。子育て教育環境、住み良い環境あるいは支援内容、これらについても現制度の見直しが必要であろうと思います。(こうした施策について町内にどうもら

ず、町外に向けて広くPRしていく必要があります。そこで本町を知つてもらひ来てもらうきっかけを作り、移住、定住へつなげていけるような施策をこれから考えていかなければならぬと思ひます。具体的な施策については各課担当ごとに調整を行い、新年度予算編成作業と共に進めております。しかし、依然厳しい財政状況の中でありますので、緊急度、重要度の高い施策から優先的、計画的に実施したいと考えております。

施策の検討事項としては、一つは乳幼児保育環境の充実であり、それにはどうぐりの増築あるいは改修について具体的に進める段階にきております。老朽化しております放課後児童クラブの改築

あるいは小学校中学校の一貫教育の推進、また、障がい児対策の充実、保健、健康対策も必要とを考えます。基幹産業の農業林業の担い手確保は大切な対策として、新規就農あるいは法人の従業員の確保、また、林業における緑の雇用プラスト町独自事業の拡大、そうしたことも必要があるだろうと思います。また、30数年の歴史があるオケクラフト作り手の養成ほか、魅力あるオケクラフトと合わせて食との連携についても作り上げていく必要があります。そして置戸の山や川など自然環境を大切にすることも含めて一つひとつテーマとして検討していくことが必要だと思います。

井上町政5期20年の思いについて

町には戻らされた20年  
町の将来を見据えて

## 町長 町風は支えられた20年 町の将来を見据えて

井上町政5期20年の総括についてであります

が、町民も非常に関心高く、  
来春には井上町長の5期20年

## そこが聞きたいんです…。Q&A

**A** 5期20年の総括ということがあります、今やつていることに間違いはないのか、町の将来にこの事業は役立つているのか、真に町民のためになつているのか、そのことを見いつも考える訳であります。町長に就任したのが平成12年6月10日であります。したがつて任期満了までのヶ月残されていました。総括するにはもう少し時間がほしいのですが、19年半責任ある仕事でした。平成20年にこどもセンターどんどんとして、他の町村に先駆けて認定こども園を開設することができました。

それから障がい者の拠点づくりとしてキッチャン木の実の開設であります。これは私自身の夢と大きな期待でした。学校の統廃合であります。これも町長としては非常に苦しい判断であります。私は子

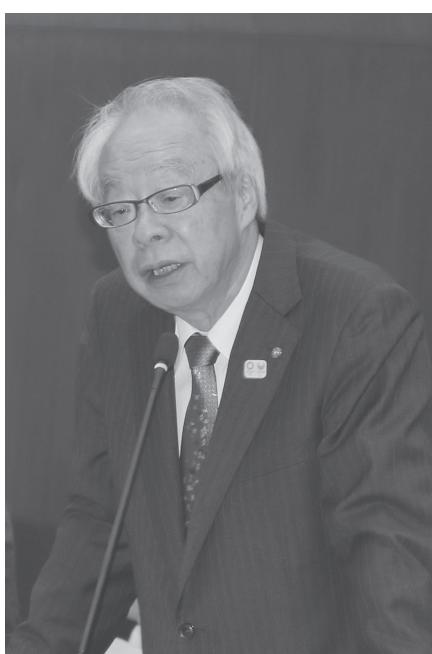
を終える時期が来ますけれども、一言いでも20年といつてもいふんなことの積み重ねがあり、今日を迎えたことと思います。語り尽くせない話があろうかと思いますけれど20年間の町長の総括をお伺いします。

ども中心に考えるべきことだと、子どもを人質にとのようなことだけは地域の議論のなかでやめてほしいということをずつと言つてきました。しかし、時間もかかりましたけれど学校が地域にとつてどれほど大きなそして大切なものが、子どもの将来、教育というものを考えたり、どこかで大人としての判断をせざるを得ないことありました。

これも一つの延長線上になりますが、幼稚園、保育園、へき地保育所の一元化であります。この幼稚園、保育所を運営している母体というのがそれぞれ違いました。

そして時間もかかりましたけれども丁寧に説明したつもりです。平成20年にこどもセンターどんどんとして、他の町村に先駆けて認定こども園を開設することができました。

それから障がい者の拠点づくりとしてキッチャン木の実の開設であります。これは私自身の夢と大きな期待でした。学校の統廃合であります。これも町長としては非常に苦しい判断であります。私は子



▲5期20年の総括をする井上町長

か、障がいをもつてゐる人たち、その人たちとの交流もありましたけれども、その子どもたちの成長室を作らなければならぬと思いまして。今では休憩室の和室をかでやめてほしいうことをすつと言つてきました。しかし、時間もかかりましたけれど学校が地域にとつてどれほど大きなとして大切なものが、子どもの将来、教育というものを考えたり、どこかで大人としての判断をせざるを得ないことありました。

多目的交流施設「げんき」の建設であります。私は高齢化社会がどんどん進むなかで悩む」ともいろいろ出てくるだろうと思いました。そのようななかで施策として考えた時に、この夏まつり32事業を実施しました。特にOGF、町民構成劇としての命つなぎ、子ども100年まつりでの町民パワー、これらは2世紀を迎えた本町の大きな財産になりました。職

た時に、どこかで誰にも気兼ねせずに集まれる場所を作らなければなりません」と思いました。今では休憩室の和室を使つて囲碁や将棋をしたり、テレビを見たり、本を読んだり、自由に高齢者が利用できる施設となりました。

平成27年には開町100周年の節目を町民の皆さんと一緒に祝おうと順調に進んでいました。少なくオーブン6周年を迎えますが、これにはNPO法人たちつてどの皆さん努力があつて、順調に進んでいました。この大会に参加チームの方からも多くの賞を貰いました。その時に自分たちをこんなに熱く、そして感動させてくれた祭りという誓をさせてほしいというお話をされました。その時に自分がいました。その時に自分たちをこんなに熱く、そして感動させてくれた祭りという誓をさせてほしいという内容がありました。この置戸の夏まつりが単なる夏のイベントということがではなく町が発展していくこの歴史に裏打ちされたそのように改めて再認識いたしました。これからも何十回と私は続いていくと思っています。盛り上げていく、守つていくことが重要であり、大切な宝物の一つだと思います。

オケクラブ、図書館、32億円かけた簡易水道統合事業そしてまちづくり総体のこと、まだまだ言いつくせないことがたくさんあります。私の5期20年の総括とさせていただきます。

員も関係者の人も相当苦労しましたと思います。

それから置戸人間ばん馬大

会ですが2年前どしゃ降りの

テントのなかで開会式を行い、

その時に参加チームの方から

この大会に對しお礼の選手宣

誓をさせてほしいというお話

がありました。その時に自分たちをこんなに熱く、そして感動させてくれた祭りという誓をさせてほしいという内容がありました。この置戸の夏まつりが単なる夏のイベントということがではなく町が発展していくこの歴史に裏打ちされたそのように改めて再認識いたしました。これからも何十回と私は続いていくと思っています。盛り上げていく、守つていくことが重要であり、大切な宝物の一つだと思います。

オケクラブ、図書館、32億円かけた簡易水道統合事業そしてまちづくり総体のこと、まだまだ言いつくせないことがたくさんあります。私の5期20年の総括とさせていた

## 総務常任委員会

# 道内所管事務調査

令和元年10月8日から10日にかけて、総務常任委員会が実施した所管事務の調査内容や調査地の現状及び「調査事項に係る所見」について、その要旨をお伝えいたします。

## ◀浦河町▼

### ・うらかわ生活体験事業について

人口減少に歯止めをかけるため、平成17年に移住促進の窓口のワンストップ化を図った移住促進対策室を設置し、翌年の18年から生活体験事業を開始しました。

後に民間人からなる「暮らし案内人登録制度」も創設し、

移住者に乗馬体験、町内案内、交流会の開催など浦河暮らしの魅力をアピールし「うらかわのちよつと暮らし」を支援しているとのことです。

うらかわ生活体験事業では、町内の空き住宅や町有住宅を活用し、主に本州からの生活体験希望者に、1週間から1年間まで何回でも貸し出し利用を可能とし、家賃は1万8千円から11万円まで、広さや立地など好みに合わせ、16棟の住宅を抽選により募り「うらかわ暮らし」を体験してもらうかわ暮らし」を体験する、体験移住後は完全定住化につなげています。

平成18年度から30年度まで

体験移住した実績は、474世帯890人、滞在日数は延べ4万71331日間にのぼり、体験移住者の内33世帯69人が完全移住、16世帯28人が住民票を異動しない「地域居住として定住し、1世帯の月平均消費額は27万7933円となつており、地域経済に貢献していることがわかりました。

移住体験者の多くは60代の退職者で、その半数はリピーターで、昆布干などのアルバイトやパートの仕事をしながら、「うらかわ暮らし」を楽しんでいる人が多いようです。

### ・うらかわ生活体験事業について

平成27年から始めた生活体験住宅確保事業はリフオーム費用の3分の2、上限200

万円を補助し、最大4年間を

体験住宅とし、提供してもらう制度で、現在まで10棟のリ

フォーム実績を重ね、家具や備え付けで寝具や車はレンタルか持ち込みなど移住体験が

容易にできるよう工夫されていました。また、空き家の再活用、空き家の廃屋化を防ぐほか4年間の優先利用期間が過ぎれば、売却することもできます。一方デメリットとしては、冬期間の利用がほとんどないため収益性が低いことが課題となっているようです。

所見としまして、(一)数年本州の夏は記録的な高温で、冷涼な北海道の夏の生活を求めるシニア層は今後も増加する」とが想定されます。

人口減少と地域消滅が叫ばれている今日、浦河町の空き家の利活用と交流人口・定住人口の拡大施策は、地域の受け入れ環境の整備や創意工夫、町や担当者の熱意が強く感じられ、多々参考になる事例がありました。

## ◀富良野市▼

では、平成27年度まで「富良野の地元食材を応援しているお店」の取り組みを支援するグリーンフラッグ事業を推進していましたが、主に飲食店のみの取り組みで広がりが見えず、飲食店だけではなく生産農家、加工業者の「食」に対する「思い」をひとつにし

「食の力」で富良野を盛り上げていきたいという思いから、平成28年度からメイドインフルノ事業をスタートさせました。

メイドインフルノ認定制度は、民間主導の事業展開であり、富良野市の事業予算是200万円程度で、制度周知、PR、補助金など、今後考えられる課題にも取り組んでいました。

・食のまちづくりについて  
メイドインフルノの取り組みについてですが、富良野市

まり、内陸性の気候がブドウに適したことから、農家収入の向上と地場産業の育成を目的としてワイン事業に着手し現在に至っています。

現在では十勝の池田町に次ぐ道内2番目の自治体ワインとして富良野市を代表する特産品に成長しています。現在ブドウ栽培面積は50ヘクタールで年間ワイン30万本、ジュース10万本を上限生産量として定めそれ以上の生産はしないこととしています。

次に、ふらのチーズの取り組みですが、昭和56年に富良野市農産加工研究所を設置し、ナチュラルチーズの研究開発に着手。酪農学園大学協力のもと、牛乳の消費拡大と農畜産物の一次加工を始めました。富良野市の取り組みで感じたことは、食の関連分野の向上が、生産者のやる気次第、そして、事業者のモチベーションを維持向上させるために自治体がどこまで支援ができるのかがカギだと思いました。

置戸町も食のアドバイザーを置いて8年目となり、公民

館サロンを中心とした食の教育事業を進めておりますが、食を中心とした地域おこしに至っていないのが現状で現在に至っています。

す。民間事業者や商工会、農協との連携や加工施設の整備など第6次総合計画に向け検討の必要性を強く感じました。

## へ 愛 別 町 へ

- ・子育て支援について
- ・子どもの一時預かり制度

「子育てサポートのびのび」の

▼愛別町議会議員との意見交換



取り組みは、育児の援助を受けたい人、援助を行つてもよい人が会員になり相互援助活動を行う、人と人、人と地域の繋がりを地域全体で子育て見守りを目的として、平成21年度から始まりました。

次に、幼児センターの時間延長の取り組みですが、通所保育においては、保護者の仕事と子育ての両立を支援することを目的に、開園時間を午前8時から午前7時30分に早め、閉園時間も午後5時30分から午後6時30分に延長しました。

次に、子育て世帯向け住宅の建設ですが、次代を担う子どもたちが健やかに育ちつる暮らしやすい住宅、住環境づくりを整え「夢」を親子で語り合い「育む」子育て環境の支援を目的とし、平成22年に1棟4戸を建設、平成26年にも1棟4戸を建設しました。家賃

設定は基本家賃6万8千円で子どもが1人いる場合5万円、2人では4万3千円、3人では3万6千円の設定となっています。

置戸町は今年10月より国の方策もあり保育園の無償化が実施されましたが、愛別町は平成29年4月より完全無料化が行われました。愛別町では福祉、あるいは子育て支援に対する施策の充実が顕著に見て取れました。人口規模、財政規模ともに本町と似ていますが、独自の施策を用いたまちづくりを行っていました。一方で学校給食は全道でも数少ない未実施であります。一方で学校給食はあります。しかし、じだわりを持つての施策、町の歴史を感じました。わが町においてもこだわりを持った独自の施策があつても良いのではないかと感じました。

次に、子育て世帯向け住宅の建設ですが、次代を担う子どもたちが健やかに育ちつる暮らしやすい住宅、住環境づくりを整え「夢」を親子で語り合い「育む」子育て環境の支援を目的とし、平成22年に1棟4戸を建設、平成26年にも1

# 委員会の活動状況

〔令和元年10月下旬から  
令和2年1月中旬まで〕

△学童保育の今後について	【11月25日】 定について (町長提案)
△中央公民館所管の各種行事の見直し、集約化の必要性について	【11月13日】 △第7回置戸町議会臨時会の運営等について
△郷土資料等の「デジタル化」状況について	【11月5日】 △図書館の利用状況と今後の展望について
△議会運営委員会の開催依頼について (町長提案)	【11月19日】 △置戸高校の生徒確保対策など、各種支援策の現状について
△議員協議会の開催依頼について (町長提案)	【11月22日】 △小学校統合10年を機に、期待される小中一貫教育的具体的な進捗状況について
△議員協議会の開催依頼について (町長提案)	【11月25日】 △上下水道料金改定から1年経過後の実績と計画の対比について
△第7回置戸町議会臨時会の運営等について	【12月6日】 △町道の維持管理と今後の整備、新設計画について
△第8回置戸町議会定例会の運営等について	【12月6日】 △第6次総合計画について
△第8回置戸町議会定例会の運営等について	【12月6日】 △町有林の現状について (現地調査)
△総務常任委員会	【11月19日】 △議員協議会
△会計年度任用職員の制度制定について (町長提案)	【11月19日】 △総合計画審査特別委員会
△会計年度任用職員の制度制定について (町長提案)	【11月22日】 △平成30年度各会計決算の審査結果決定
△会計年度任用職員の制度制定について (町長提案)	【11月22日】 △議会広報特別委員会



あとがき

12月定例会において、第6次総合計画原案が提案されました。議会としては特別委員会を設置し付託の上、具体的な事業、財政計画も含め審議しました。議会において採決することになります。

令和新時代、なかなか先の見えない状況での10年先を見据えての計画です。策定委員の皆さんのがどれだけ苦労され

て。 石井伸一 議会広報通算19年目

たかと思う時、あらためて敬意と感謝を申し上げたいと同時に慎重に誠意をもつて審議したいと思います。2020才リンピック年、5月には置戸町長選挙があります。総合計画「笑顔と夢を未来につなぐまち」のスタート年であり、どのようにスタートし、バトン、たすきをつないでいかか年となりますよう心より願つて。

議会活性化委員会では次のとおり

## 議会懇談会

を開催します

日時 2月26日(水) 18時30分～

場所 コミュニティホールぽっぽ 2階

内容 議会活動報告

令和2年度当初予算

第6次総合計画等について

※事前申込みは不要ですので、たくさんの方のご来場をお待ちしています

お問い合わせ

置戸町議会事務局 (TEL 52-3391)